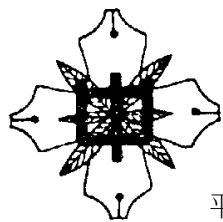


【教育目標】 将来をみつめ「学び考える力」「自他を大切にする心」「たくましく生きる力」を育てよう



十中だより

平成27年5月27日 発行 第2号

発行者:中野区立第十中学校

限界突破 ～十中 PRIDE で突き進め～

5月17日(日)、前日の雨で順延となった運動会が区内小中学36校のトップを切って開催された。

開会式の校長あいさつでは、運動会プログラムに記載した、「1年生が中学生として成長した姿を見せ、2年生が中堅学年として力と技で盛り上げ、3年生が最高学年としてリーダーシップを発揮する」という『運動会の理想形』について説明。また、入場行進に使われている「栄冠は君に輝く」の歌詞の一部「感激をまぶたに描け」の通り、運動会での感激をまぶたに描き、感動のドラマを胸に刻み、十中に新たな歴史と伝統を築いてくれることを期待すると述べた。

見出しの「**限界突破 ～十中 PRIDE で突き進め～**」は今年の運動会スローガン。

真夏を思わせる高い気温と強い日差しの中、十中生としてのプライドを胸に、自らの限界に挑みながら運動会に参加していた十中生の生き生きとした姿や眩しい笑顔、熱い涙に多くの人の心が奪われた。

特に、練習に多くの時間をかけた学年種目「1年いかだ流し」「2年大縄跳び」「3年大むかで」、そして女子「十中ソーラン」、男子「組立体操」では、全員が心を合わせて競技していた態度に大いに感動させられた。たくさんのご来賓や保護者の方々からもいい運動会で、見ていて楽しかった、感動したというお誉めの言葉をいただいた。



こうした運動会が実施できたのは、実行委員をはじめとする十中生一人ひとりのプライドと努力、そして、仲間の励ましや協力、さらには、来校された500名を超える保護者、卒業生、地域の皆様、ご来賓の方々の力強い激励と声援の賜物である。運動会開催に尽力されたすべての方々に感謝申し上げたい。



* 運動会の詳細については、各学年便りに記載されています。そちらもあわせてご覧ください。

5 分間のドラマ

～みんな、跳びながら泣いていました～

運動会開催6日前の5月11日(月)、全校朝礼において運動会の大縄跳びで最下位になったクラスの全員が飛び上がって大喜びをしていた映像を観た。本校運動会閉会式の校長講評でそのことに触れたら、来校された方からどのような内容の映像だったのか問われ、後日、「十中だより」で紹介することを約束。以下、映像内容である。

☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆

2年1組には勉強も運動もちょっと苦手な一人の少年がいたが、クラスのみんなはこの少年に対してとても優しく、いつも皆で支え合ってきた。

運動会を間近に控え、このクラスに亀裂が生じた。学級対抗の大縄跳びで、少年だけがうまく跳べず、いつも1回目で引かかってしまう。一緒に跳ぶことが平等なのか、外すことが思いやりなのか、クラス全員が悩んだ結果、少年は「応援係」になった。それからは、クラスは練習を重ね、記録を伸ばし、予行では1位になった。

運動会前日、一人の生徒が先生に気持ちを伝える。

「大縄跳びで、安部ちゃんを外して跳ぶのはイヤです」

放課後、緊急のクラス会議が行われる。

「何で今ごろ言うんだよ!」と怒りをあらわにする生徒もいたが、クラスは「勝ちたいから安部ちゃんを外したい」と「一人も外さないでみんなで跳びたい」で二分する。その時、一人の生徒が「俺たちが決めることじゃなくて、安部ちゃんが決めることだよ」と発言。

いつも周りに気をつかい、自分の意見を言わない安部ちゃんのことをクラス全員が待った。そして、少年が心の底から絞り出した言葉は、

「跳びたい…」

それは少年が初めて自分の気持ちを表現した瞬間だった。その言葉で、クラスは勝ち負けへのこだわりが消え、勝つことより大切なことに気づく。

「安部ちゃんが跳びたいんだから、みんなで跳びたい！」

「勝ち負けなんて関係ないから、一緒に跳べればいい！」

「予行練習で1位だったんだからそれでいい！本番は安部ちゃんと一緒に跳びたい！」

こうして、二分していたクラスは1つになった。

その日の班ノートには次のようなことが書かれていた。

「放課後、みんな残って、安部ちゃんのことを話しました。金子さん、鈴木さんの泣き顔、まだ頭の中から離れない。あっそうそう、先生の泣き顔おかしかったな。先生必死になって泣くのをやめようとして。ああいう時は泣いていいのに…」

「私、このことは忘れないと思うな。みんなの優しい気持ち、すっごくよくわかった。2年1組はとってもすてきなクラス。一回も跳べなくていい。みんなで楽しみながら大縄しよう」

運動会当日の昼休み、2年1組は午後に行われる大縄跳びの最後の練習を行う。しかし、全員のかげ声で回した縄は少年の足元で止まる。みんなで一緒に跳ぶことを選んだ生徒たちだったが、練習では一度も跳べずに本番を迎える。

本番、保護者が偶然撮ったホームビデオに、少年が一人の生徒に抱きかかえられて跳んでいる映像が残っている。1度、2度とトライするが、縄は少年の足元で止まる。そして、3度目のトライの時、縄は1回、2回、…、6回と宙を回った。初めて少年がみんなと一緒に跳んだ。本番であることを忘れクラス全員が飛び上がって喜び合う。

そして、奇跡は起こる。今度は、誰の支えも受けず、少年が一人だけで跳び始めた……。

結果発表。

「1位〇組。2位〇組。……。5位2年1組」のアナウンスが流れる。

最下位にも関わらず、まるで1位になったようにクラスが全員で飛び上がって大喜びする。



その日、少年は作文に書いた。「とびはねるほどうれしいです。今日のぼくは絶好調でした」

心配でみんなの足元ばかりを見ていた先生が、他の生徒の作文で知ったことがある。

「みんな、跳びながら泣いていました」

☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆

仲間と共有できる貴重な時間を精一杯共に過ごすことで、運動会は2年1組の生徒にとって忘れようにも忘れることのできない最高の思い出となった。今から18年前の小田原市の中学校であった本当の話である。

家庭学習習慣は学力を支える基盤

平成24年11月、中野区教育委員会は、家庭で身につける学習習慣が学力を支える基盤であるとの観点から「家庭学習の手引き」を作成し、区立小・中学校に在籍している児童・生徒の全家庭に配布した。

手引きは、小・中学校での学習は、子どもたちが将来、社会人として自立するために必要な力を育てていると述べ、全国学力・学習状況調査結果では家庭学習をしていない子どもに比べ、家庭学習をしている子どもの方が正答率が高いという傾向が見られるとの分析結果も示している。また、

「家庭学習の効果」として、

- 学校で学習した内容が、より確かに身に付きます。
- 自ら学ぶ力が身に付きます。

をあげている。そして、

「家庭学習の進め方」として、

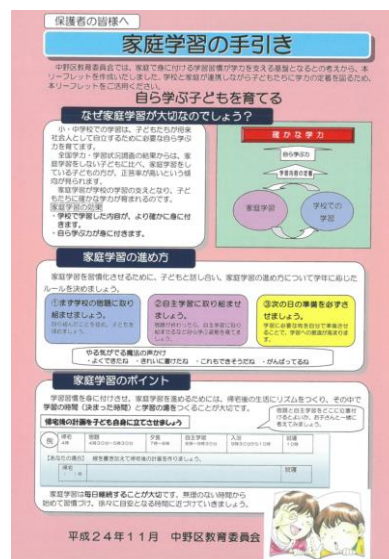
- ① **まず宿題に取り組ませましょう。**
→取り組んだことを認め、子どもをほめましょう。
- ② **自主学習に取り組ませましょう。**
→宿題が終わったら、自主学習に取り組ませるなど自ら学ぶ姿勢を育てます。
- ③ **次の日の準備を必ずさせましょう。**
→学習に必要な物を自分で準備させることで、学習への意識が高まります。

と、学年に応じて家庭でのルールを定めることを提唱している。

手引きは最後、家庭学習は「毎日継続すること」が大切であり、無理のない時間から始めて習慣づけ、徐々に目安となる時間に近づけていきましょう、と述べている。

同手引きの内容を実践していただければ、家庭学習の定着が図れ、学力の向上が大いに期待できるものと確信している。

なお、同手引きを必要とされる場合は副校長までご連絡ください。



<前期中間考査>

6月10日(水)

- ① 数学
- ② 保体
- ③ 技・家

6月11日(木)

- ① 社会
- ② 音楽
- ③ 英語

6月12日(金)

- ① 国語
- ② 美術
- ③ 理科

「e学校ネット」への登録について

4月の十中だよりで「e学校ネット」について取り上げ、これまで2回「学校情報」を配信しました。

1回目は5月16日(土)に「運動会の延期」、2回目は5月25日(月)に「PTA会費徴収」に関する内容でした。

すでに登録されている保護者で今回のメールが配信されていない方は学校へご連絡ください。また、改めてご登録を希望される方は学級担任、または副校長にお申し出ください。お子様が兄弟で在籍している場合は、それぞれ登録されることをお勧めします。

今後も、学校情報の配信に努めて参ります。